

SHANNON LLC | AI SEARCH OPTIMIZATION

AI検索最適化（AIO/GEO）

サービス資料

AIに、正しく見つけて引用される。ChatGPT・Perplexity・Google AI Overviewsなどの生成AIに、事業内容を正しく発見・引用してもらう取り組みです。



「AI検索で出てこない・誤って説明される」を、技術面から解決します

「AI検索で自社が出てこない」「誤って説明される」段階からご相談ください。



AI検索で出てこない

ChatGPTやPerplexityで自社を調べても、出てこない・古い情報で説明される。顧客がAIで下調べする時代に、機会損失につながる。



誤って要約・引用される

AIに事業内容やサービスを、誤って要約・引用されてしまう。他社との混同や古い説明がそのまま回答に載り、訂正の手段も分からない。



AI検索向けの打ち手が不明

SEOはやってきたが、AI検索向けに何をすればいいか分からない。従来の順位対策だけでは、AIの回答に載るかどうかを測れない。



AI向けの整備状況が不明

robots.txtや構造化データが、AI向けに整っているか分からない。作った当時のまま放置され、現在の状態を誰も把握できていない。



クローラーを弾いていないか

サーバーのWAFやアクセス制限で、AIクローラーを弾いていないか不安。robots.txtで許可を書いても、サーバー側で遮断されていけば届かない。



AIが調べて答える時代へ

生成AIが企業やサービスを調べて答える流れが広がっている。AIの回答が顧客との最初の接点になり、そこに出なければ比較にも入れない。

※ AIO=AI Optimization／GEO=Generative Engine Optimization。生成AIの回答に正しく登場・引用されるための最適化の呼び方です。

SEOとの違い：SEOが検索結果での順位を上げるのに対し、AIO/GEOは生成AIの回答の中に正しく登場・引用されることを狙います。SEOの施策とも両立します。

「検索して選ぶ」から「AIが調べて答える」へ

—見つけ方が変わっています

生成AIが企業やサービスを調べて答える流れが広がり、AIの回答が顧客との最初の接点になりつつあります。



AI検索の時代に問われること

- **発見**：AIクローラーがサイトを巡回・取得できるか
- **解釈**：事業内容・サービスの関係を誤解なく解釈できるか
- **引用**：AIの回答の中で、正しく登場・引用されるか

※ 段階の区分は当社整理によるものです。

この「発見・解釈・引用」の土台を技術面から整えるのが**AI検索最適化（AIO/GEO）**です。次ページでSEOとの違いをご説明します。

SEOは「検索順位」を、AIO/GEOは「AIの回答への登場」を狙います

従来SEOとAIO/GEOの比較。対立するものではなく、両立できる取り組みです。

従来のSEO（検索エンジン最適化）

コンテンツ最適化

検索エンジン向けの改善

>

上位に表示

検索結果の順位を競う

>

クリックして訪問

流入はサイト側で発生

- 検索結果の順位を上げ、クリックからの流入を獲得する取り組み
- キーワード設計・コンテンツ制作・内部リンク整備など、ページ単位の最適化が中心
- AIO/GEOと両立し、資産はそのまま活きる
- 効果はこれまで通り、検索順位とクリック数・流入の推移で測る

※ 引き続き有効な施策です。AIO/GEOはこれを置き換えるものではありません。

AI検索最適化（AIO/GEO）

巡回の受け入れ

robots.txt / llms.txt /
JSON-LD

>

正しく取得・解釈

誤解されにくい状態
を作る

>

AIの回答内で引用

事業内容が正しく説
明される

- ✓ robots.txt・llms.txtでAIが巡回・取得できる土台を整える
- ✓ 構造化データで内容を誤解なく伝える
- ✓ AIの回答に事業内容が正しく引用される
- ✓ 効果は「AIにどう説明・引用されるか」の定点測定で確認

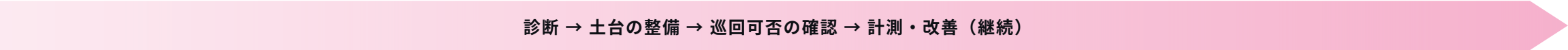
※ AIがサイトを巡回・取得できる土台づくりと、内容を誤解なく解釈させる構造化が中心です。

順位ではなく「引用」を設計する

SEOの資産はそのまま活きます。AIO/GEOは、その上に「AIが読める土台」を足す取り組みです。次ページで対応範囲の全体像をご説明します。

まず現状を診断し、土台を整えてから、継続的に計測します

AI可視性の診断から、クロール基盤・構造化データ・サーバー側の巡回可否、そして継続的な計測まで。



※ llms.txt＝サイト構成をAI向けに要約したテキストファイル。JSON-LD＝構造化データの記述形式。WAF＝Webアプリケーションファイアウォール。

AI検索最適化（AIO/GEO）は、AIクローラーの受け入れから構造化データ、サーバー側の巡回可否までを整え、AIに事業内容を正しく発見・引用してもらう取り組みです。

実測で現状を把握し、AIが読みやすい土台から整えます

対応範囲（1/2）：AI可視性の診断、AIクローラーの受け入れ、構造化データの整備。



AI可視性の診断

ASSESSMENT

主要な生成AIで実際に検索し、「出るか・どう説明されるか」を測定します。感覚ではなく実測から始めることで、打ち手の根拠を明確にします。これまでのSEOの取り組みも伺い、両立する形で進めます。

- 主要な生成AIでの実測
- robots.txt・構造化データ・サーバー設定の不備の洗い出し
- 改善の優先順位付け
- 狙う検索文脈のヒアリング



AIクローラーの受け入れ

CRAWLABILITY

AIクローラーがサイトを巡回・取得できる土台を整え、AIが読みやすい状態にします。許可を書いてもサーバー側で遮断されていれば届かないため、巡回可否の確認とセットで進めます。

- robots.txtで主要なAIクローラーの巡回を許可
- robots.txtへのSitemap明記
- サイト構成をAI向けに要約したllms.txtの用意
- ChatGPT・Perplexityなどの巡回に対応



構造化データの整備

STRUCTURED DATA

AIがページ内容を誤解なく解釈できる形にします。会社・サービス・記事の関係を機械可読なデータで明示し、混同や誤った要約を防ぎます。整備の効果は「AIにどう説明・引用されるか」の定点測定で確認します。

- Organization・FAQ・ArticleなどのJSON-LD整備
- 事業・サービスの関係の明示
- 誤解されにくい情報構造への整理
- 他社との混同・古い説明の防止

※ robots.txt・Sitemap・構造化データ・llms.txtはサイトの実装方式に依存しないため、WordPress以外のサイトにも対応できます。

「許可を書いても届かない」を防ぎ、定点測定で改善を続けます

対応範囲（2/2）：サーバー側の巡回可否の確認と、継続的な計測・改善。



サーバー側の巡回可否の確認

SERVER

- ・ WAF ・ アクセス制限の確認
- ・ 国外IP制限でAIクローラーが弾かれていないかの確認
- ・ 実際に巡回が通る状態の担保



計測・継続改善

MEASUREMENT

- ・ 主要な生成AIでの定点測定
- ・ 変化を見ながら打ち手を継続
- ・ 可視性を上げる改善の継続

発見されるか

ChatGPT・Perplexityなど主要な生成AIで自社が出てくるかを実測。回答に登場しない場合は原因を調べます。

どう説明されるか

事業内容が正しく・最新の情報で説明されるかを確認。古い情報や誤解があれば、発信元の情報から整えます。

どう引用されるか

どのページ・どの情報が引用されるかを追跡。引用されやすいページの傾向を、次の打ち手に反映します。

※ 上記3点を定点測定の観点として継続的にモニタリングします。

正直にお伝えします： AI側の挙動は制御できないため、確実な引用は保証できません。誤解されにくい状態を作り、打ち手を継続します。

まず現状を測り、優先順位を付けてから整備します

原則フルリモートで進めます。WordPress以外のサイトにも対応できます。

01



ヒアリング・現状測定

主要な生成AIで自社がどう出るかを実測し、狙う検索文脈を伺います。これまでのSEOの取り組みも伺い、両立する形で進めます。

02



診断レポート

robots.txt・構造化データ・サーバー設定の不備を洗い出し、優先順位を付けて示します。

03



実装

クローल基盤（robots.txt / Sitemap / llms.txt）、構造化データ、サーバー側の巡回可否を整えます。実装方式に依存しないため、WordPress以外にも対応します。

04



計測・継続改善

AIにどう引用されるかを定点で測定し、改善を続けます。発見・取得されやすく、誤解されにくい状態を保ちます。

現状測定 → 診断レポート → 実装 → 定点測定（継続）

まずは現状のAI可視性診断からのご相談も承ります。「いま自社がAIにどう説明されているか」を知るところから始められます。

※ 料金はサイトの規模・現状・対応範囲によって変わるため、要件確定後に書面でご提示します。最初の30～60分のオンライン相談は無料です。

会社概要

社名 シャノン合同会社 (SHANNON LIMITED LIABILITY COMPANY)

代表者 三浦 昌大 (Masahiro Miura)

設立 2026年4月 (決算月：3月)

拠点 東京都豊島区池袋2丁目17-8 / 千葉県柏市若柴178-4 / 北海道札幌市中央区北二条東3丁目2番2号マルタビル8階

資本金／取引銀行 9,900,000円 / 三菱UFJ銀行柏支店

事業内容 プロダクト開発・運営 / インフラ構築・運用 / エンジニアリングエージェンシー

パートナー Xserverビジネスパートナー / Microsoft Cloud Partner Program

連絡先 050-1794-9651 / contact@shannon.co.jp / <https://shannon.co.jp>

3 拠点

東京・千葉・札幌

28 件

公開実績

2014年～現在

10 業種超

対応業種

金融・医療・小売・SaaS・警備など



E.O.F

